

札幌トレセン大会報告書

2016. 8. 24

札幌4種技術委員会（早津）

1、大会名・日程

トレセン交流大会 U11 札幌開催
2016. 8. 8 (Mon) ~ 9 (Tue)

2、参加選手（ ）内は所属チーム

小田耕暉、片桐 涼、石垣翔太、加藤柊星（以上JSN）、米内山瑠輝、吉田衣玖（以上L-WAVE※吉田は2日目欠席）、阿部秀音（元町北）、成田陸也（札幌緑）、山田隼人（リベルタ栄町）、横山大輝（元町）、室谷柊羽、室谷柚羽（以上ジュントス）、明石慎之介（TIPS）、東小園智也（篠路）、藤巻颯太（フォーザ）
※けがのため出場できなかったが西脇雄太（JSN）は2日間とも見学としてずっと帯同していた。

3、引率者名

政時卓矢（TIPS）、小門祐太（JSN）、早津拓加浩（元町北）、浜岡 卓（イーストガンバ）

4、大会結果

1日目	北地区A 3-0 北空知A	2日目	北地区A 1-6 西地区A
	北地区A 3-0 南地区A		北地区A 1-4 小樽A
	北地区A 1-6 中央A		北地区A 1-3 旭川A
	北地区A 2-2 東地区A		北地区A 3-7 東地区A

5、成果と課題

U-11になり、テーマを「守備」に重きを置いてトレーニングをしてきた。そのテーマを生かすために、フォーメーションを3-1-2-1にして試合をした。また、ポジションを固定させず、毎試合ポジションを替え、いろいろなポジションにチャレンジさせた。

<成 果>

- お互いの距離が良いと、チームとして連続した守備ができ、そこから攻撃に転じることができた。
- 攻撃は手数をかけず、シンプルにフィニッシュまで行くことができた。
- 不慣れなポジションながら果敢にチャレンジし、そのポジションの特性や役割を理解しようとしていた。
- 得意なポジションに入ったときは、ポジション取りもよく、守備時のスペースを埋めるのも速くなり、うばってから攻撃に移るのに時間をかけずにできることも多かった。

<課 題>

- 相手にボールを回されると、ズレてマーク（プレス）に行けなくなり、互いの距離感が悪くなってしまった。
- 声のコミュニケーションが十分ではなく、マークにつくことやスペースを埋めることが遅れる場面が多々あった。
- 攻撃時に縦に速くなりがちで、つまったときに立て直す・作り直すという意識が薄かった。
- 利き足に頼ったプレーが多かった。
- チームの事情や負傷もあってメンバーがそろわず、日程的にハードだった。